

(国語科)

自分の思いや考えを進んで表現する子どもを育てる
～「読む力」を高め、「伝え合う力」を育てる指導を通して～

大阪市立生野南小学校 小野太恵子 磯谷容子 別所美佐子 秋元雄之 田中梓

1. 研究主題の設定

本校では、「豊かな心・確かな学力を持ち、たくましく生きる力を身につけた子どもを育てる」という学校教育目標のもと、「自ら学ぶ意欲を持ち、心身ともに健やかな思いやりのある子どもを育てる」ことを学校経営の重点として教育活動を展開している。

本校の児童は、伝えたいことを言葉で相手に伝えることが苦手である。特に、感情的になっている場合は、その感情を暴力として表してしまうことがある。

対人関係のトラブルがあっても、子どもたちは学校が好きである。学校という小さな社会の中で、わかってほしい気持ちや甘えたい気持ち、そして自分自身を先生や友だちにどう表現したらよいのかわからず、大人への試し行動や友だちへの暴言・暴力につながるケースが非常に多かった。

したがって、まずは児童一人一人が輝き、「伝えたいこと」が増えるような仕掛けを学校生活のあらゆる所にたくさんつくり、その上で出来事や気持ちを表現する「伝える力」、受け止める「聞く力」の育成を、授業や生活の様々な場面に設定し、児童の自己肯定感を高めながら「伝え合う力」を身につけさせることが早急に必要であると考えた。

そこで、平成26年度より「自分の思いや考えを進んで表現する子どもを育てる～『読む力』を高め、『伝え合う力』を育てる指導を通して～」という研究主題を設定し、研究を推進してきた。

2. 研究の内容

①心を育てる国語科教育 ～「読む力」をもとにし「伝え合う力」を育てる～

- 読みを深めるための工夫
- 伝え合うための工夫
- 学習環境の工夫(壁面掲示の工夫)
- 家庭学習の工夫

②「読む力」の強化 ～学校図書館との連携をはかる～

- 読書活動の年間計画と、教科ごとの単元に沿った並行読書・調べ学習用図書の参考例をまとめた資料を4月当初に作成。
- 環境整備
- 地域の市立図書館との連携
- 朝の読書タイム
- 読書週間
- 図書委員会の活動
- 図書館補助員・図書館ボランティアとの連携

③「伝え合い」の場 ～学校生活のあらゆる場面で設定する～

- 学年発表

- 委員会発表・クラブ発表
- 学校行事
- 校内掲示板　～『書く』ことで伝え合う～
- 生南放送局　～よい『聞き手』を育てる～
- ④他教科との関連　～さまざまな教科で「伝え合う」～
 - 「伝え合う力」が、他の教科でどのように活かされているのかを検証するため、7教科5領域（社会・算数・理科・音楽・図画工作・家庭・体育・保健・総合・外国語・特別支援・学校図書）において研究授業を実施。

3. 研究の成果

- 心を育てる国語科教育

「相手の立場にたつ」という第一歩を踏み出すことを期待し、物語教材を扱ってきた。教材を通し、何を考えさせたいかを大切にし、3年間で柔軟かつバリエーション豊かな読み取り方法を、児童の実態に応じて提案することができた。
- 「読む力」の強化

家庭にも学校にも読書環境が十分に整っていなかった状態から、今では本が身近な存在になっている。たくさんの本を通し、たくさんの「ことば」に出あうことは、「読む力」の向上につながっていった。
- 「伝え合う場」の設定

今がんばっていることをクラスみんなで発表することや、クラブ活動や委員会活動の報告を工夫して伝えることで、ことばで繋がるあたたかい輪は、どんどん広がっていった。
- 他教科での「伝え合い」

「伝え合う」というテーマのもと、3年間で7教科5領域の授業を積み重ねてきた。ICTの活用や教材の工夫、話し合いの方法など、教科の特性を活かし、活発に意見交流するための様々な手立てに広がりが見られた。

4. 研究の課題

本校には、児童の個性が輝き、一生懸命になれる場所がたくさんある。そこにはいつも一生懸命な教職員の姿がある。たくさんの課題を抱える児童を「何とかしよう」と、同じ方向を向いたマンパワーは、うつむいていた子どもたちを笑顔に導き、校舎には笑い声や、あたたかい言葉が響いている。しかし、校内の様々な取り組みが成果を見せ、学校全体が活性化する一方で、「不登校」や「虐待」など、子どもを取り巻く家庭の中に、今まで気づきにくかった非常に複雑な課題があるケースが浮かび上がってきている。さらに、子どもの笑顔の影にある「貧困」や、施設の児童や家族機能に課題がある児童が抱える「愛着課題」にも向き合っていかなければならない。

社会や子どもの現実に向き合い、「子どもの最善の利益」を道標に、教職員がともに力を合わせて進んでいきたいと考える。